

刊行によせて

2016 年度は、国際学部創設 30 周年にあたっている。本学部は、30 年前、まったく新しい学問、「国際学」を学ぶ場所としてつくられた。「国際学」とは何か、を定義することは難しいが、簡明にいうなら、あらゆる社会科学を統合しつつ、現代社会のさまざまな問題にアクチュアルにかかわっていくことを目的とした、きわめて学際的な色彩を帯びた学問である、ということではできるだろう。

本号においても、共同研究での「越境する音と国際関係史」あるいは「雑の研究」、公開セミナーの「垣根を越えて」といったテーマ設定やタイトルに見られるように、既存の学問のジャンルに囚われない姿勢は一貫しているように思う。

また「核時代における軍縮努力」や「領有権問題の克服に向けて」で提起されているように単なる研究にとどまらず、時代に直接かかわる問題を俎上にのせていることも、本学部研究の特徴といえるだろう。

時代は大きく変わり、社会における大学の位置、その役割も変貌しつつある。研究や教育の内容だけではなく、大学という存在が、この社会の中でいったいどういう意味をもつのか、社会との一体化を押し進めていくべきなのか、それとも、社会という巨大な「生きもの」をコントロールするために、いまこそ、社会と距離をおいた関係を結ぶべきなのか、考えるべきことは多い。年報が、そのための一助になれば幸いである。

また、学部創設 30 周年を記念した『国際学研究』記念号も刊行されるので、そちらの方も読んでいただけると嬉しい。

2016 年 10 月

国際学部附属研究所
所長 高橋 源一郎